

令和4年度 吾郷会本部事業報告書

社会福祉法人 吾郷会

経営理念 「顧客満足の追求」

前年度に引き続きコロナ禍が続く中、吾郷会に於いてもクラスターの発生が起こったが、職員一丸となり重大となる事態は防ぐことが出来た。また、コロナ発生時におけるサイト間の連携も図ることが出来た。

サービス向上に於いては、現状に応じた対応を行った。経営は物価の高騰、職員不足により厳しい状況であった。

指 標 事業所ごとに目標を設定し達成する。また達成の過程で積極的に経営にかかわる事業所毎の目標に向かい、全体で同じ方向に向かい努力を行ったが、コロナ禍や物価の高騰により経営の安定が予想しにくく、経営状況等の周知・報告を職員に行ったが、全体で積極的に経営にかかわることは難しかった。

基本方針

※ 人材の育成

外部コンサルタントと管理者育成・次世代リーダー・ボトムアップの三種のリモート研修を開催し、コロナ禍においても意識改革・人材育成に力を入れ行い、各々が各事業所に持ち帰りサービス向上に繋げた。その他のリモート研修や対面研修にも参加し、情報収集・知識習得を行った。人事評価については、全体会議の開催が行えず、また、コロナ禍により評価しにくい状況があり、有効とまらない面もあった。

※ 組織の確立

コロナ禍や職員不足により、すべき業務に専念出来ず、ムダな活動も多くあった。しかし、指示待ちから自ら動ける職員も見受けられた。

※ なぜの追求

ISO 9001 の更新審査により、吾郷会全体の慢性的な弱みが見受けられた。指摘事項を改善するための活動を行うため、組織全体で再度「なぜ」を考える機会となり、サービス向上に繋がった。

※ 地域貢献

コロナ禍により、交流行事は行うことはできなかったが、各事業所に於いて地域とのかかわりを持つよう努力した。関係者にもモバイル・紙媒体を有効に活用し、貢献した。研究発表大会は Web 発信にて開催するに至った。

1. 事業

- (1) 介護老人福祉施設双葉園 設置経営 (定員 50名)
- (2) 介護老人福祉施設ハートランド双葉園 設置経営 (定員 30名)
- (3) 介護老人福祉施設サンデイズ双葉園 設置経営 (定員 50名)
- (4) 介護老人短期入所・介護予防老人短期入所 設置経営
(双葉園4名、ハートランド双葉園6名、サンデイズ双葉園20名)
- (5) 通所介護・通所介護予防老人福祉施設吾郷センター 設置経営 (定員 25名)
- (6) 美郷町介護予防・日常生活支援総合事業
- (7) 通所介護・通所介護予防老人福祉施設サンデイズ双葉園 設置経営 (定員 40名)
- (8) 大田市介護予防・日常生活支援総合事業
- (9) 認知症対応型共同生活介護マホロバの里 設置経営 (定員 8名)
- (10) 訪問看護・介護予防訪問看護ステーションおおち 設置経営
- (11) 吾郷会居宅介護支援事業所 設置経営
- (12) 高齢者生活支援ハウスサンデイズ双葉園 受託運営(大田市) (定員 20名)
- (13) 養護老人ホームまほろば大和 設置経営 (定員 50名)
- (14) 外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業所まほろば大和 設置経営
- (15) ヘルパーステーションまほろば 設置経営
- (16) 老人介護支援センター事業
(美郷町在宅介護支援センター大和、大田市海岸中央在宅介護支援センター) 設置経営
- (17) 小規模多機能型居宅介護ふたばの里 設置経営
(定員 登録24名、通所12名、宿泊7名)
- (18) 生活困窮者や社会福祉に関する人材育成に対する一時的な居住等の提供事業

2. 評議員会

年間に定時評議員会を1回、臨時評議員会を1回開催し、決算関係、補正予算、当初予算等定款に基づき審議した。

3. 理事会

年間に通常理事会を2回、書面による決議を1回開催し、理事執行状況の報告及び決算関係、補正予算、当初予算、諸規程の変更等定款に基づき審議した。

4. 相談役

法人の事業等について随時相談を行った。

5. サイト長会

コロナ禍により開催は出来なかったが、本部からの情報発信を行った。

6. 監査

書面監査 令和4年5月14、15日 決算監査 令和4年5月18日

7. 研修

役職員による外部研修へ年間35回参加(役員研修2回、外部研修5回、Web 研修28回)し、知識の向上や情報収集を行った。法人内研修(リモート)により、自己研鑽すると共に自事業所の活動につなげた。

8. 人事評価制度

年間2回、人事評価を実施した。全体会議は行えなかったが、各サイトにて平準化を図るための人事評価における研修の実施を促がした。

9. 第三者サービス評価

事業所によるサービスの点検を法人が委嘱したサービス評価委員3名により、サービス内容の整合性の評価を受け、サービスの質の向上を図った。また、改善事項について指導いただき、評価項目の改善を行った。

10. ISO の推進

PDCA 活動、CAPD 活動のみでなく、SDCA 活動を行うことの推進を図った。内部監査の有効な活動を行ったが、不適合において根本原因の特定(なぜ)の改善スピードがなかった。内部監査、更新審査においてサービス向上のための継続的な大きな改善すべき点が見つかり改善を行った。

11. 地域貢献事業の実施

各サイトで通勤経路の美化活動に努め、環境整備につなげた。保育所・小学校との交流、中学校・高等学校の職場体験の受け入れはコロナ禍で中止となった。また、継続して生活困窮者の方へ住宅提供の整備を行ったが利用はなかった。

12. 研究発表大会の開催

新型コロナウイルス拡散防止の観点から中止としたが、Web での研修の開催に至った。

13. 各種委員会

・リスクマネジメント委員会

年間に5回開催し、リスクの軽減、事故予防に努めサービスの向上を図った。また、様々な基準の平準化を図った。

・食事委員会

年間に5回開催し、課題を検討しながら衛生に関する事項、食事の質の向上を図った。

・コンプライアンス委員会

各事業所とも相談・通報はなかった。委員により相談体制の強化を図った。
委員会の中で今後ますます増加する各種ハラスメントについて協議した。

・広報委員会

広報誌を年間に4回発行し、家族・地域・関係機関に配布して吾郷会の活動を PR した。
ホームページの更新を随時行った。
研究発表大会の Web 発信の中心として、開催に至ることが出来た。

14. コロナ禍における社会福祉法人の使命の推進

SDGsを利用し、社会貢献を継続的に行えた。